

# 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立第三中学校

## 1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

- ・国語科において、平均正答率は、府平均を上回っていますが、全国平均には及びませんでした。調査結果概要からは、中央値あたりに生徒が集中しており、極端な成績の生徒が少なかったことが特徴です。また、正答数が0もしくは1の生徒もいませんでした。問題形式別にみると、特に記述式の問題での健闘が目立っており、ほぼ全国平均より正答数が上回っています。一方、正答率が高くなかった問題を見返すと、語句の意味や使い方の理解に課題があることも浮かび上がってきます。
- ・数学科において、平均正答率は、府平均・全国平均を大きく上回っており、約6割の生徒が10問以上を正しく解答することができました。また、こちらも記述式の問題で健闘しています。ただ、「事象における数量の関係を見だし考察する」という数的思考の上に国語力も求められる応用問題において、府平均を下回っており、説明力を問われる問題には課題があることがうかがえます。

## 2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も顕著な成果は、記述問題に対する、無回答がほとんどないということです。その結果、記述問題での正答率が大きく向上しており、①普段から授業の振り返りを50字以上でまとめさせる②定期テストや実力テストで記述問題の割合を多く出題する、などの取組みが実を結んだ結果となりました。</li> <li>・生徒質問紙の内容から、国語に関する回答はほぼ全項目にわたって良好な結果であり、生徒の関心や意欲の高い授業展開ができていることがうかがえます。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」のすべての領域で、府の平均より正答率が高くなっています。特に登場人物の心情を推し量る難易度の高い問題でも正しく理解できており、授業における言語活動の充実を推進した成果と考えられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の意味に対する基本的な知識にとらわれすぎている傾向があります。例えば、語句の意味を推察する問題では、前後の文脈から、語句の持つ様々な意味を文脈から類推しなければならないが、最も基本的な語句の意味にとらわれてしまい、誤答になってしまっている傾向にあります。</li> <li>・「随時」という語句の意味を答える問題に苦戦しています。普段、話し言葉で使う用語については十分な知識を持っていますが、書き言葉でしか使われない語句に対する知識が不十分であることがうかがえます。</li> <li>・基本的な敬語の種類やその使い方の定着が十分ではありませんでした。普段の生活で敬語を使う場面が減少していることが原因の一つであると考えられ、学校内外でそのような機会をあえて作り出していくことが、彼らにとって重要であると考えられます。</li> </ul>

## 数学

・各問の①にあたる問題の正答率が高く、各単元の基礎学力の定着がうかがえます。

・「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」の正答率が高く、数的思考とそれを論述する数学的表現力に成果が見られました。

・「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる」の正答率が高く、課題解決の方法を数学的に説明する力が備わっていることがうかがえます。

・関数のグラフを用いて問題解決の方法を探る問題において課題がみられました。無解答率が比較的高く、自分で見通しを持って作図することに課題がある誤答例が見られました。今後、グラフや表を取り扱う単元では、生徒が自分で作図する時間を十分に確保し、作図する力の定着を図ってまいります。

・ヒストグラム（度数分布）の読み取りに課題が見られました。取り扱う頻度が比較的小さい単元であるため、既習事項を確実に定着させるための指導方法の工夫に取り組んでまいります。

### 3. 成果と課題を踏まえた今後の取組みの方向性について

調査結果全般から見られる本校の課題としては、基礎的な語句や学習頻度の少ない計算などの定着があげられます。今後も継続して復習等を細かにを行い、更なる学力向上に努める必要があります。国語科では語句の成り立ちや発展的な語句の応用、敬語の使い方など、教科書の単元と単元の間収録されている内容を充実させ、基礎的な語彙を育てていく予定です。また数学科では、分野ごとの作図の練習や、出題頻度の多くない単元の定着を念頭に置いた授業づくりを行ってまいります。

今回の調査結果では前年度以前より、発展的な問いや記述式の問いに対する正答率・無解答率の向上が見られました。国語科では「書くこと」に重点を置いた課題を、日頃の授業で積み重ねることを目標としてきました。授業の中でグループ活動や、プレゼンテーションのための原稿づくり、またSDGsをテーマとした6000字のレポート作成や新聞づくりなどを軸に、活用する力を養う授業を展開してきたことで、難しそうだと感じるような条件付きの記述式問題にも臆せず挑める経験値を得てきた結果と考えます。

数学科では1クラス2分割の少人数授業を実施してきました。生徒一人ひとりへの地道なサポートやグループ活動、ICTを活用した授業展開を常とし、日頃から授業の中で難易度の高い課題にも取り組む機会を設けています。

今回の調査結果はこれらの授業展開の成果であると考えられるため、今後も継続的に実施してまいります。さらに、日頃の授業の中に「活用を取り入れた課題設定」を盛り込むことを学校全体の課題とすることで、基礎の定着と、活用力の向上をめざしたい。

#### 4. 学力向上に関する現在の取組みと今後の改善について

第三中学校では今年度より分掌のひとつとして「授業力向上研究部」を発足した。授業づくりに重点を置き、今後の課題についてより具体的な方策を設けるためである。分掌を中心に学校全体の方針として、授業づくりに「6 in Class」を取り入れることを掲げている。

##### 2021年度研究テーマ

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた効果的な指導方法を研究し、めあて・振り返りのある授業づくり
- ・「主体的・対話的で深い学び」のある学習指導と評価（テスト）の一体化
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり

- 1. 自学自習力の育成
- 2. 家庭学習の習慣化
- 3. 工夫ある振り返り
- 4. 学習指導と学習評価（考えて答えるテストの工夫）の一体化

##### 【第三中授業に取り入れる “6 in Class”】

###### ①めあての提示（写真1）

生徒は、何ができるようになればよいか分かる。

###### ②振り返りをする

生徒は、この単元・授業でわかったことを具体的に伝えたり書いたりできる。

###### ③授業内で、文章を書く機会をつくる

生徒は、自分の意見や大切なことを書いて表現する。

###### ④グループやペアで意見交流や学び合いの機会をつくる

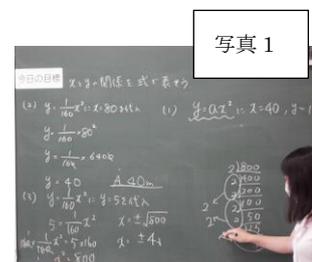
生徒は、他の人の意見やアドバイスにより自分の理解を深められる。

###### ⑤授業と評価の一体化を考える

授業者は、授業で学習した内容を評価できるテストを作成する。特に言語表現を工夫し活用問題を取り入れる。

###### ⑥授業規律の徹底

ルールを確認し、生徒も授業者もこれを守って、日々の学習に向かう。

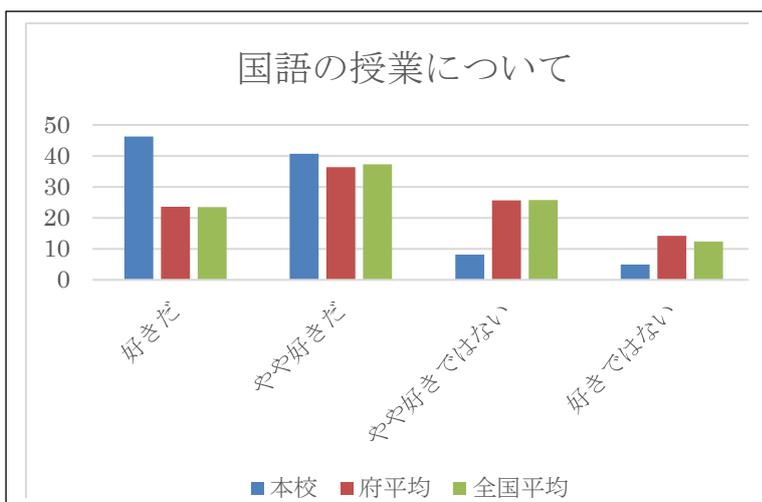


以上の項目を年度初め、学期ごとの職員会議等で確認し共通認識するように努めている。また今年度は公開授業も控えているため、これらの項目を踏まえた授業の実施も考えていきたい。今回の調査結果を受け、全教科の授業において、基礎学力を保障しつつ、「6 in Class」の③④の中に、「活用を取り入れた問題」を取り入れていくことで更なる学力向上をめざし、進路保障に努めたい。タブレット等の ICT 機器を積極的に活用し（写真2）、言語表現を工夫した活用問題への取組みを模索している。向かい合っただけの意見交流は難しいため、ホワイトボードを活用したグループ活動を展開するため、各教室のグループ分のボードとペンのセットを常設した。個人のタブレットを使用し Google Classroom を活用した授業展開も視野に入れ、研修を重ねている。

また従来の調べ学習にも力を入れ、図書教材（ICT 含む）を積極的に活用し、教科の枠を超えた授業づくりを展開してきている。公開授業を通じて外部からの知識も積極的に取り入れながら、授業づくりを充実させたい。

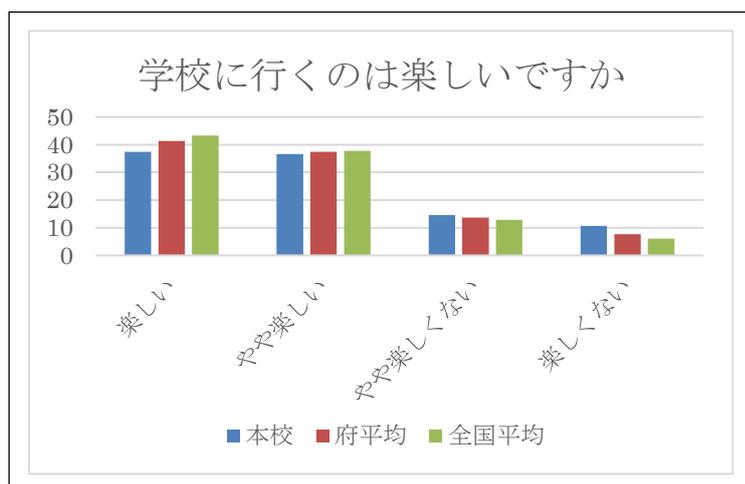
## 5. 児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉



左のグラフは質問 43 についてであるが、44～51 までの質問（国語に関する質問）に対して肯定的回答が多い。限定的ではあるものの、授業が常に興味深く取り組めるように準備をしている成果と考えています。また、書くということに抵抗感がなく取り組めていることが、数学科の論述問題の好成績にも影響を与えていると考えられます。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉



全国的な状況ではありますが、昨年度より、コロナ禍において行事がほぼ中止となり、当該の学年の生徒たちは、今までの先輩たちが経験してきた行事をほとんど体験できていません。今こそ行事を補って余りある学校生活を保障していかなくてはなりません。授業力や学級経営力、学年運営など一層の努力してまいります。

## 6. 保護者・生徒のみなさんへ

第三中学校の生徒のみなさんは、非常に落ち着いた校風を自分たちで築いてくれています。どの教室も学習規律が整っており、時間やルールを守って取り組むことができます。

学力については、まず、基礎的な内容がしっかりと身につけています。国語の授業に対する積極的な態度や、数学の少人数指導で得られる、質問機会をしっかりと自分のものにしてきています。より特筆すべきは記述・論述問題に対して非常に良い成績を残せていることです。一方、既習の問題でありながら、出会う頻度の少ない問題に対して苦手な人が多いようです。定期テストではしっかり解けたのだが、実力テストで久しぶりに出会うと・・・という人が少なくないのではないのでしょうか。この結果が出ているころには習った範囲が、さらに増えていることと思います。復習することの大切さを今回改めて感じてほしいと思います。

質問紙調査からは、「自分でやると決めたことはやり遂げる」という質問項目について意識が高く、うれしく思います。一方、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」の項目で肯定的に答えた人が少ないのが残念です。さまざまなことに挑戦して、自分のよさを見つけてほしいと思います。